

ものかは難しい点があります。

◆幼小中高連携教育の推進

問 実施の趣旨を伺う。

教育長 学校・家庭・地域社会が一体となって子どもを育てることを通し、八街市の未来づくりをします。

問 市民参加の要請の現状はどうか。また、今後どのように参加要請を図っていくのか。

教育長 市民の約1割、7千名の参加を考えています。これまで広報「やちまた」に掲載したり、各学校の「学校だより」を地域に回覧し、お知らせしてきました。

個人質問 小澤 定明

◆在宅高齢者福祉の充実

問 在宅の高齢者の現状はどうか。

市長 平成16年4月1日現在、65歳以上の高齢者の人口は1万632人で、高齢化率は14・1です。

問 在宅高齢者福祉施策の充実への取り組みは。

市長 ホームヘルプサービス事業、在宅介護支援センター運営事業、緊急通報装置設置管理事業、はり、き

ゆう、マッサージ等の利用助成事業、ねたきり高齢者等へのおむつ代助成事業などを実施しています。

問 緊急通報装置のより一層の充実を望むかどうか。

市長 申請に対し、ほぼ設置している状況で現在の設置台数は336台です。

問 今後の敬老事業の充実を望むかどうか。

市長 市内9会場で敬老会を開催しています。今後の開催は委託先の社会福祉協議会と協議の上、進めたい。

◆JR踏切整備について

問 どのような整備計画の中で踏み切り通行の安全確保に取り組んでいくのか。

市長 現在のところ、富山交差点付近の踏切は、用地買収を進めています。八街駅南側の国道409号の踏切は、区画整理事業に併せ、改良する方向で県と協議を重ねています。

◆ふれあいバス事業

問 利用実績と事業費の推移は。

市長 12年度と15年度を比較すると、利用者数が約1・5倍に増加しています。事業費は、毎年度1コース

当たり850万円程度の赤字相当額を運行補助金として支出しています。

問 運行受託者は固定されたものであるのか。

市長 今後の契約は、公共事業としての安全性、信頼性、実績などのほか、運行経費の削減、競争原理の導入の観点から、入札などの方法も視野に調査・検討を行います。

◆雨水排水対策

問 雨水対策は。

市長 休耕田等の借用や雨水貯留浸透施設の整備などの緊急対策を進めるとともに、調整池や水路等の整備を計画的に実施したい。

問 県道の雨水排水に新たな方式が取り入れられているがどのような方式か、また、その方式を市道排水に活用を図っていくのか。

市長 新たな方式は、道路側溝の雨水排水等の油分や土砂等を分離して比較的きれいな水を吐き出し、浸透させる柵です。県が実施している柵の設置効果や維持管理等の実績を踏まえ、地域の状況を考慮し、市道排水への活用を検討したい。

誠和会

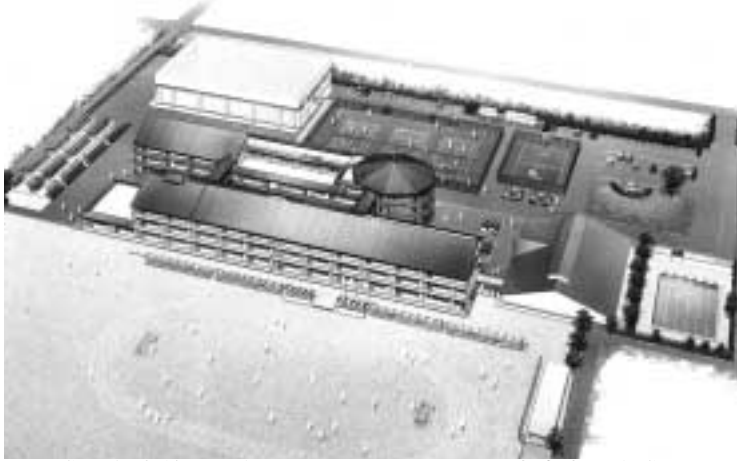
山本邦男 山本義一 古川宏史 北村新司 横田義和 中田眞司

代表質問 横田 義和

◆学校問題

問 八街中央中学校校舎改築、計画の概要及び基本設計の進捗状況は。

教育長 今年1月より基本設計業務に着手し、7月で基本設計を終了しています。概要は、既存校舎と南側グラウンドの間のテニスコートに南北2棟の校舎を配置する計画で、既存校舎跡地にはテニスコートや駐車場などを計画しています。構造規模は、鉄筋コンクリート造り3階建て、延べ面積は基本設計時点で8千909㎡です。現在、実施設計、地質調査などを行っており、平成17年度の着工に向けて事業を進めています。



▲平成17年度着工に向けて事業を進めている中央中の完成予想図

問 朝陽小学校・東小学校の分離校の計画は。

教育長 次期基本計画の中で、人口や児童数の推移を見極めながら、分離校の是非について再検討し、増築あるいは就学区

域の見直しなども視野に含め、対応を検討します。

◆道路の整備促進について

問 今後の道路整備の方針。また、1、2級市道以外でそれに準ずる道路の整備方針は。

市長 道路整備の推進は、都市計画道路、幹線道路及び1、2級市道以外の幹線的な性格を帯びている道路などの体系的な整備と歩行者空間のネットワークの形成が重要と考えます。

問 交差点改良の今後の推進の考えは。

市長 交通の円滑化と交通安全の長期的な視点から、国道409号のバイパス的な機能を持つ路線と主要な路線との交差点を中心に整備し、交通渋滞の状況、安全性、緊急性を考慮し整備したい。

問 交差点改良と信号機設置を暫定形で進めることは如何か。

市長 緊急性の高い交差点は、個々の実情に即した暫定的な改良方法を検討し、安全性の向上を図ります。また、信号機設置は交差点改良が必要なものが多くあり、早期に安全を確保す